不変の行動指針のもと「こころ」×「digital」を実践して

健祥会グループ理事長
中村太一

時代に先駆けるサービスで地域に根ざして

「福祉は人 人は心」「心と心」と掲げ、福祉が輝く社会を夢見て、1979年、健祥会グループはひとつの特別養護老人ホームからスタートしました。現場のニーズに応えるために規制と闘い、規制の壁の一つひとつを実践で乗り越え、時代に先駆けるサービスで地域に安心を届けながら、高齢者福祉から障がい者福祉、医療、幼児教育、人財育成まで、幅広く事業展開を図ってきました。徳島から、香川、高知へ、大阪、京都、東京へとそのフィールドを広げ、現在、71拠点で施設を展開、健康づくりやスポーツ・文化振興など、様々な地域活動を精力的に実践しながら、地域に根ざし、地域との絆を紡いでいます。

特定社会福祉法人として変革の時代に挑む

人口減少高齢化が加速し、社会の様々なシステムが変革を迫られる中、社会保障分野においても制度の持続性を高めるための改革がすすめられています。社会福祉法の改正により2017年にはグループ内の社会福祉法人健祥会と緑風会が、全国で２万を超える社会福祉法人の中で300ほどしかない特定社会福祉法人となり、社会への大きな責任を負うことになりました。ガバナンスと財務規律の厳格化、組織の透明性、地域貢献がより高いレベルで求められますが、企業であれば、一部上場になったようなものと受け止め、身を引き締めて経営に臨んでいます。

「こころ」こそ私たちの真価

2020年世界を襲ったコロナ禍を契機として、私たちエッセンシャルワーカーの仕事の意義が再評価されることになりました。社会の大きな期待に応えるために、また、選んでいただける施設であるために、安心安全・高品質のサービスのその先により大きな信頼を紡いでゆかねばなりません。
コロナ禍により介護・医療、教育・保育の世界でも目覚ましい勢いでデジタル化が進みました。当グループでも、新設施設での見守りセンサーやICTシステムの整備はもちろん、既存施設においても順次デジタル化を図っています。
しかし、大切なのはデジタル化そのものではなく、デジタルがもたらすエビデンスや利便性を駆使してよりよいサービスをつくっていくこと。どんなにテクノロジーが進化しようと、それが利用者様の望むことなのかどうかをしっかり見極め、常にニーズに寄り添いながら、AIには担えない「こころ」の為す領域を大切に守っていく… それこそが私たちの真価であり誇りです。

「人こそ財」を実践して

私たちのサービスを支えるのはなんといっても「人」＝「職員」。つまり、「人こそ財」ですから、人財にとって働きがいのある職場であるよう、職環境をよりよくする努力を続けており、健康経営、ワークライフバランス、子育て支援など、様々な分野で取り組みが実を結んでいます。また、外国人財を大切な仲間として、多様性を認め合う共生職場であることを誇らしく思います。

原点に立ち、不変の行動指針を掲げて

不安定要因の多い今、未来は予測不能ですが、何がどう変わろうと、利用者様と地域社会に安心安全を、園児と学生に豊かな育ちと学びを届けることが私たちの使命。そして法人として職員に働く喜びと働きがいを届けることが責務です。
常に原点に立ち、そして高く掲げた不変の行動指針「サービスの質の追求」「職場での共創」「地域社会への貢献」を胸に、質の高いサービスを提供する供給体へ、働きがいのある職場へとたゆまぬ挑戦を続け、人としてのあたたかな「こころ」と先進のデジタル技術で、地域に希望と安心を紡いでまいります。